

説教

新年礼拝

北浜チャーチ

黒田禎一郎

2020年1月5日(日)

主 題:「義人の祈りには力がある」(1)

ーアーメン、ハレルヤー

テキスト:ヤコブの手紙5章13~18節

はじめに

- ・前回(昨年11月10日)、ヤコブの手紙から主の御声を聞いてから、約2か月の時間が経過しました。そこで先ず、短く復習しましょう。
- ・前回の説教主題は、「はいを、はい、と言いなさい」でした。聖書は「誓ってはならない」と教えています。私たちは、「なぜ、誓ってはいけないか」を学びました。覚えておられますか・・・?
- ・そして、誓っても、誓いの言葉を守り通せない私たちは、どう生きるべきか学びました。「まとめ」として、5章12節を覚えました。

5:12 私の兄弟たち。とりわけ、誓うことはやめなさい。天にかけても地にかけても、ほかの何にかけても誓ってはいけません。あなたがたの「はい」は「はい」、「いいえ」は「いいえ」でありなさい。そうすれば、さばきにあうことはありません。

- ・私たちは「「はい」は「はい」、「いいえ」は「いいえ」という生活を送りたいと思います。すなわち、私たちの口から出る言葉についての問題でした。(説教のさらなる詳細については、どうぞ説教原稿をお読みください。)
- ・今日の説教は、その続きとなります。今日のテキストも、同じく言葉です。まず、言葉について整理しましょう。ヤコブの手紙で取り上げられている言葉には、3種類のものがあります。

① 神から私たちへの言葉

これは聖書のことばです。このことについては1章で学びました。

② 人から人への言葉

ヤコブは3章で、この言葉の問題について注意すべきことを語りかけてくれました。

③ 人から神への言葉

これは①と逆のことです。人から神への言葉、すなわち「お祈り」のことです。その③の言葉の問題、「お祈り」について、私は今回と次回にわたりお話ししたいと思います。 2点

大切なポイント**1. 「アーメン」、「ハレルヤ」と言い歩む人**

5:13 あなたがたの中に苦しんでいる人がいれば、その人は祈りなさい。喜んでいる人がいれば、その人は賛美しなさい。

- ・大変すばらしいことばですね。なぜなら、キリスト者がもつべき2つのことばを、教えられるからです。その2つとは、「アーメン」と「ハレルヤ」です。アーメンとはアラム語で、「そうです。真理です。その通りです。」という意味であります。「苦しんでいる人

がいれば、その人は祈りなさい。」とあります。「苦しんでいる」とは、さまざまな逆境の中で苦しむことです。祈りの最後に、アーメンと言いますが、ただ、だてに言っているわけではありません。

- もう一つ「喜んでいる人がいれば、その人は賛美しなさい。」とあります。喜んでいるとは、霊的、精神的に充実した状態であることです。そういう状態は、ハレルヤです。つまり、ハレルヤはヘブル語で「神を賛美します。ほめたたえます。」という意味です。
- 皆さん。もし神を知らなかったとしたら、どうでしょうか。つぶやきと疑いの中に落ち込んで、いってしまうのではないのでしょうか。時には、神を信じていても、そうになってしまうことがあります。イスラエルの民をご覧ください。

申命記 28 章

28:67 あなたは朝には「ああ夕方であればよいのに」と言い、夕方には「ああ朝であればよいのに」と言う。あなたの心に抱くおののきと、あなたの目に見る光景のゆえである。

この聖句は、落ち着かない人の心を表しています。

- 新約聖書はこう教えています。

ピリピ人への手紙 2 章

2:14 すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい。

苦しみの時に、神から目が離れると、つぶやきと疑いに捕らわれてしまうことになります。

- 私たちは心の中に、神による本当の勝利を持たない限り、私たちは耐えず、周りの状況、現象、出来事、人の反応、あり方などに左右されてしまいます。というよりも、何であっても結局は不満に思えてしまいます。こうなればいいのにと思っているようになったら、感謝するかというと、必ずしもそうではありません。
- では、前の状態の方が良かったかと言えば、それもやはり不満です。こういう性質を神に解決していただかなければ、本当の意味で内的な勝利を得ることはできません。
- 逆に、喜んでいる時に神から目を離すと、私たちは自己満足と言える状態になってしまいます。神に感謝や賛美をささげるのではなく、「自分はやれたのだ」という満足で終わってしまいます。神を称えることを忘れ、自己満足に陥ってしまうのです。
- そうなってしまうのではなく、苦しい時も、喜びの時も、それを神の前に持つていくのがキリスト者の姿であります。苦しい時に、それを神のもとに持つていくと「祈り」になります。喜びの時に、それを神のもとに持つていくと「讃美」になります。いかがでしょうか。私たちは、そのようなアーメンとハレルヤを、正しく用いているのでしょうか。
- ある意味で、これはキリスト者の生活の鍵とも言えましょう。この二つは、表と裏のようなものではないでしょうか。結局は同じことです。神のもとに「苦しみ」も「喜び」も持つていくからです。今年、私たちには苦しいことも、また喜ぶこともあると思います。その度ごとに、13 節を思い起こしてください。さあ、ここでご一緒にお読みしましょう。

5:13 あなたがたの中に苦しんでいる人がいれば、その人は祈りなさい。喜んでいる人がいれば、その人は賛美しなさい。

2. 「祈り」と「信仰」で歩む人

1) 神癒の祈り

- 13節の「苦しんでいる人がいますか」、「喜んでいる人がいますか」ということに続いて、次は「病気の人がありますか」ということが出てきます。

5:14 あなたがたのうちに病気の人があれば、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。

5:15 信仰による祈りは、病んでいる人を救います。主はその人を立ち上がらせてくださいます。もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。

- 当時は、オリーブ油を塗り祈るという習慣があったようです。教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗り祈ってもらうことです。当時の教会は、複数の指導者によって導かれていました。
- 病んでいる人がいる時、私たちも祈ります。これからもそうでありたいと思いますが、神はそういう祈りに、今まで何度もお応えくださいました。しかし、中には必ずしも願うようにはならないこともありました。それでも信じて祈ります。なぜなら、神は最善を成してくださるお方であると信じるからです。
- 皆さん。祈りについては、いくつもの書物があります。いろいろな角度から学ぶことができます。北浜チャーチの祈禱委員会では、毎月一回、「祈り」をテーマにした本をテキストとして、先人たちの信仰の姿勢を学んでいます。祈りについては、神を信じる信仰者として一生、学びつづけなければならないことでしょう。
- 神は、病んでいる人を救ってくださいます。ですから、頭の中だけではなく、実際的なことも学び続けていかなければなりません。

2) 祈りの4つの応答

- 私は、祈りの聞かれ方について、少なくとも4つあると思います。

① すぐに応えられる祈り

これは大きな喜びです。祈れば、すぐに100%の応答をいただくのですから、信仰が励まされます。そして、「アーメン」ということばが出てくるでしょう。

② 時間をおいて聞かれる祈り

- 祈りの結果、神からの即答は得られませんが、時間をおいてから聞かれることがあります。たとえば、VIP 関西センターのテナント入居です。私たちはこのビルの2F、ワンフロアに、もっとも相応しいテナントが入るよう祈りました。クリスチャンであるオーナーさんは、お酒を提供するテナントや、カジノや遊興施設が入らないよう願っておられました。
- 約1年間、私たちは祈り続けた結果、どうですか。今はインドネシア福音教会が、2Fに入居しています。これこそ、祈りの結果であり大きな励ましであります。

③ 別の形で聞かれる祈り

- ・イエスは、あのゲッセマネの園で真剣な祈りをされました。マタイ福音書
26:39 それからイエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈られた。「わが父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしが望むようにはではなく、あなたが望まれるままに、なさってください。」
- ・イエスは天父神に、まったき信頼を寄せておられました。これは真に天父神を信頼している姿でもあります。苦しみの盃は過ぎ去ることはありませんでしたが、それによって、全人類が救いにあずかるという神のみわざが成就いたしました。
- ・神は私の願いよりも、もっとすばらしい応えを備えておられることがあります。目先しか見えない私より、神はずっと先までも見通しておられますから、神の視点からみてお応えくださるのです。それは神の恵みであります。
- ・私たちの人生においても、私たちの願い通りには進まなくても、結果的に別の形で祈りが聞かれることはあります。そして後で、それが良かったと思うことがあります。

④ 聞かれない祈り

- ・聞かれない祈りもあります。私たちの中によこしまな思いや不義があるとき、つまり私自身の罪という妨げがある時には、神は祈りにお応えになりません。ですから、私たちは自分の知っている限りの罪をきちんと始末し、祈りの妨げをもたない状態になって祈ることが大切です。
- ・そこで大切なことは、聖霊の光に照らしていただくことです。それは主との親しい交わりに、身をおくことを意味します。聖霊は私たちの助け主ですから、主の前にひざまずき、主のお導きを求めるならば、必ず光を照らして下さいます。
- ・皆さん。このように考えてきますと、私たちには自分でどうすることもできないことがあります。ほかの誰かに頼んでも、また人間的にどんなに努力をしても、できないことがあります。しかし幸いなことに、そういう時に、私たちはそれを神のもとに持つていくことができます。
- ・人間的に動き回るではありません。神に祈り、神に働いていただくことです。それが一番幸いな道ではありませんか。いかがでしょうか。私たちの祈りの生活を、もう一度あらゆる面において、点検したいと思います。
- ・とくに病む方のために、信仰による祈りが病む人を回復させ、立たせてくださることを信じて、主の助けを求めていきたいと思います。
皆さんの中に、苦しんでいる人がいるでしょうか。また、喜びの中にある人がいるでしょうか。いずれにしても、それを神の前に持ち出すことです。
そして「アーメン」、「ハレルヤ」と言って、歩む人になりたいと思います。

まとめ

主 題：「義人の祈りには力がある」（1）

ーアーメン、ハレルヤー

- ・2020年という新しい年、私たちは主の前に「アーメン」、「ハレルヤ」と言えるキリスト者になりたく思います。では、どうすれば良いでしょうか。それは神を敬い、みことばに従順であることです。そして、主の前に自分の身を置くことです。
- ・最後に次のみことばをお読みします。[ヤコブの手紙](#)
4:10 主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高く上げてくださいます。

* God bless you !